
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 398 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2017.03.17（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 982 部*****

□ 目 次 □-----

<巻頭言> 3.11 の原発事故を改めて問う

—原発事故は多くの人々の生存権を脅かしている 益永八尋

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.139』発行されました

<会員著書案内>

安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川—多摩川・上水徒歩思考』

<編集後記>

『聞く力、つなぐ力 3.11 東日本大震災 被災農家に寄り添いつづける
普及指導員たち』（農文協）—現場に寄り添いつづけるとは何か

<巻頭言> 3.11 の原発事故を改めて問う

—原発事故は多くの人々の生存権を脅かしている

2011 年 3.11 の福島第 1 原発の放射線もれの事故から 6 年が経つ。しかし、まだ
多くのひとが避難を継続している。県外 39,608 人（2017.1.31 現在）、県内
39,598 人（2017.2.13 現在）である。この間に原発事故は、被災した住民以外
や加害者側の東電社員まで被害者になるという深刻な問題を引き起こしている。

その第 1 は、風評被害が収束していないこと。福島県の調査では「風評被害
の根強さが表れる結果となった」（参考資料 1）と報告されている。一例をあ
げれば、首都圏消費者の福島県産品に対する調査では 3 割の人が「買わない」
と回答している（H24、25、26 年調査）。

福島県の生産者は農産物の放射線量の測定を行い、基準値を超えるものは出
荷しないなどにより、風評被害の収束に努めている。しかし、それにも関わら
ず、風評被害はいまだ収束していないのが現状なのだ。放射線の風評被害の収
束には、放射線についての正しい知識を有する者が増えて、大多数になること

である。正しい知識を得るための方策（教育や啓蒙、研修）をどのように実施したかが問われるだろう。当事者だけでなく自治体や国も対応することが必要である。

第2には、福島県外に避難した人たちへの“いじめ”やそれに近いものがあることである。“いじめ”は児童や学生だけでなく大人にもある。このことについて、読売新聞は、「福島県外に避難した児童生徒へのいじめが、全国の公立学校で少なくとも44件あり、うち避難に関連するいじめが7件」（福島県からの避難児童生徒は7848人）（WEB）と報道している。このいじめ件数を多いとか、少ないと考えるかは様々だろう。しかし、問題は原発事故による“いじめ”だということだ。いじめの原因を正しく把握し、対応策をとる必要がある。特に、教育や啓蒙・研修は、当事者だけでは負担増となることが想像されるので、専門的な知識を有する人材の派遣や育成をする必要がある。

第3には、損害賠償を担当している東電社員のなかで過労や被害者への対応により、ストレスが蓄積し、躁鬱病などの精神疾患となり、退職することになった社員が発生している。精神的疾患がみられる東電職員は、どのくらいいるのであろうか。かなりの職員が程度の差はあれ、精神的疾患に陥っていると想像される（『心に傷を受けた社員は、11年時点で12.8%にあたる181人』）。

精神疾患にならないように、労働実態を把握しながら適切な人事異動や新規雇用などの諸対策を効果的におこなうことが求められる。また、原発災害関連の業務での勤務が過大にならないように管理者や経営者は最大限配慮するのが求められている。これは東電の問題であるからと云って看過できる問題ではない。

参考資料1：震災後における福島県産農産物の売上・取引価格の回復状況について

http://fkeizai.in.arena.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2015/01/cyousa_2015_11_2.pdf

参考資料2：<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20170308-00050163-yom-soci>
http://fkeizai.in.arena.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2015/01/cyousa_2015_11_2.pdf

参考資料3：福島原発事故の真実と放射能健康被害

<http://www.sting-wl.com/fukushima-workaccident.html>

参考資料4：2017年3月7日 読売新聞

<https://medical-tribune.co.jp/news/2017/0307506657/>

益永八尋

山崎農業研究所幹事

yamazaki@yamazaki-i.org

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.139』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.139』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

《土と太陽と》(巻頭言)

いまなぜベーシックインカムか

—これからの「百姓的」生き方を支える政策提言◎白崎一裕

[第 154 回定例研究会]

グローバルゼーションから「農本化」としてのローカリゼーションへ◎関 曠野

[第 42 回研究所総会・第 40 回山崎記念農業賞]

総会挨拶◎小泉浩郎

第 40 回山崎記念農業賞贈呈式 (栃木県益子町・(株)川田農園)

選考委員報告◎渡邊 博

お祝いの言葉◎加藤敏之／松本 謙

受賞者挨拶◎川田 修

■総会記念フォーラム：

「こだわり」で結び合う農と食—農園と厨房をつなぐ川田農園の挑戦

I 解題：川田農園が教える食と流通◎小泉浩郎

II 我が国における有機農業の動向◎家常 高

III 栃木県の 6 次産業化振興と川田農園の特徴◎小林俊夫

IV 「農園」から「厨房」まで◎川田 修

参加者の声◎若林祥子／内田空美子／丸山紀之／堀 泰史

[特別対談]

川田農園の今と明日を語る◎松本 謙×小泉浩郎

〈連載〉“生きもの語り”の世界から(10)

なぜ日本人は、「天地自然」に惹かれるのか／宇根 豊

<会員著書案内>

安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川—多摩川・上水徒歩思考』

安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川—多摩川・上水徒歩思考』

農文協、199 ページ、定価 1700 円 (税別)

<http://www.amazon.co.jp/dp/4540142631>

※山崎農研 HP に関連記事を掲載しています。

玉川上水の奇跡「ひとくい川」(第 4、5、6 話) 連載 安富六郎 著

http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No8.pdf 第 6 話

http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No7.pdf 第 5 話

http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No6.pdf 第 4 話

http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No3.pdf 第 3 話

http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No2.pdf 第 2 話

http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No1.pdf 第 1 話

<編集後記>

『聞く力、つなぐ力 3.11 東日本大震災 被災農家に寄り添いつづける
普及指導員たち』(農文協) —現場に寄り添いつづけるとは何か

2011 年 3 月 11 日 14 時 46 分。東日本大震災の始まりである。東日本大震災の最大の特徴は、地震災害、津波災害、福島第一原発事故災害、この 3 つに同時に対処することが求められたことにある。なかでも原発事故はその収束がまだまだ見えていない。

この 3 月、わたしも編集にかかわった 1 冊の本が出版された。『聞く力、つなぐ力 3.11 東日本大震災 被災農家に寄り添いつづける普及指導員たち』。

本書は、農家の支援を目的に、農業農村の現場に配置された普及指導員たちが、あのとき何を感じ、つぎつぎに生じる問題にどのように対処し、被災農家の復旧・復興をどう支援していったのか、そして自分たちの仕事の意味をあらためてどう位置づけたのか——岩手、宮城、福島三県の普及指導員への聞き書きとともに、山下祐介氏、宇根豊氏らの論考からなる。

普及指導員の仕事の核心には、対象である農家の話を「聞く」こと、そして関係者を「つなぐ」ことがある。3.11 東日本大震災時、普及指導員たちはこの「聞く」こと、「つなぐ」ことを軸に被災農家に寄り添い、そしていまなお寄り添いつづけている。

だがこうした関係は、普及指導員と農家のあいだにだけに言えることなのだろうか。論考のなかでたとえば山下氏は次のように述べている。

「この国の農業を持続していくためには、個人の力と国の力を農家という現場で着実に結んでいくことが不可欠だ。そこに普及指導員という専門家の役割がある。」

ここでの「農業」「農家という現場」「普及指導員という専門家」はさまざまに置き換えが可能なのではないか。だから山下氏はこの一文につづいて「私はここに、例えば高度医療社会に入って、医師や看護師、介護の職員たちが直面している問題の先駆形を見る。一見地味に見えながら、農はきわめて現代的な最先端の現場なのである」と述べている。まったくそのとおりだと思う。

思えば、普及指導員という農業の専門家にかぎらずどんな仕事も、「聞く力」、そして「つなぐ力」が求められる。そしてそれこそが、「現場に寄り添いつづける」力の源なのだろう。本書は農業関係者という枠をこえて多くの人に手にとってほしい。

『聞く力、つなぐ力』

—3.11 東日本大震災 被災農家に寄り添いつづける普及指導員たち』

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_54016178/

<https://www.amazon.co.jp/dp/4540161784>

日本農業普及学会 編著／古川勉 著／行友弥 著／山下祐介 著／宇根豊 著
農文協プロダクション 発行

農文協 発売

定価 2,376 円 (税込)

ISBN コード 9784540161780

発行日 2017/03

四六判 252 ページ

2017 年 03 月 17 日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考—グローバル化の次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575 円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん (文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授)

グローバルの次は何? ~卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん (大地を守る会)

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん (長野県農業大学校教授、執筆者)

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん (拓殖大学政経学部)

ブログ：代替案 書評：『自給再考—グローバル化の次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん (イラストレーター・ライター)

ブログ：囲炉裏暖炉のある家 tortoise+lotus studio 「書評『自給再考』

<http://iroridanro.net/?p=15533>

◎ブログ：本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん (大妻女子大学)

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ (2009/01/31)

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん ((株) 共に生きるために)

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎塩見直紀さん (半農半X研究所、執筆者)

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末にURLを。

5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

http://www.csj.jp/learned-society/check/new_but/jisx0208-sjis.html

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 399号の締め切りは03月27日、発行は03月30日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 398 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2017.03.17（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』 *****